現代革命的アナーキズム

研究会 発足（日大津田沼）

甦える黒い不死鳥

革命は個人の自由の実現をめざす根底的行為である
「政府は要らない」というアナーキズムの新生は、スターリニズムの全体主義的権力の支配が完
璧なものとなればなるほど、かえって逆にますます必然的な人間的要求となって人々の心に迫るであ
ろう。

- 実践を原点とし、実践は反抗的主体、直接行動主義とする。
- 組織は中央集権的一元的価値体系を拒絶し、多元的価値体系を基本とする。
- マルクス・レーニン主義、バクーニン主義、クロポトキン主義を主な研究的原点とする。
  その他 プルードン、シュティルナー、コット・ロバッハ、ゴドー、カミュ、ルモー又・ヴェーユ、バー
  トランド・ラッセル、H・リード、D・ゲラン、日本にあっては、荒畑寒村、大杉栄、本橋敬太
  郎、佐藤信太郎 等々を対象としてゆく。
- 反スターリン主義、反ファシズムとして結成し、ヒトラー的な歴史の発展物質を
  固定した歴史的過程としてではなく、広ぼんな人民の自由と解放への人間的要求と、
  他方固定化し物質的となった社会制度との間の不断の緊張として捉える。それは前衛
  党を否定するわけではない。それは前衛党の理論的限界のある断片をトリを乗り
  こえ大衆自身の直接行動を誘発してゆくというを現代的意味のアナーキズム運動である。
  いう前衛党としての役割は、大衆、彼らを指導するのではなく、大衆を教えるのでは
  なく、彼らの要求を吸収し、予知し、定式づけ、大衆の本能を触発することにある。な
  ぜならば、人民の本能は誤りを犯すことがないからである。

アナーキズムを理解するために、まず基本
・アナーキズム思想史 大沢正道著 現代思潮社 [illegible]円 ・日本の思想者 [illegible] 著 [illegible] ・アナーキ
ズムの哲学 M・ランド著 ・現代のアナーキズム D・ゲラン著 ヨーロッパ ・現代アナーキズムの思想 ロ・ケンニング著 [illegible]
[illegible] ・ドイツ・ロシアのアナーキズム [illegible] 現代思潮社 ・パンの略取 クロポトキン著 [illegible] ・ネクロエ
ンゼル [illegible] 著 [illegible] ・スペインの教訓 F・ボルケナウ著 ヨーロッパ ・アナーキズム [illegible]
バクーニン ノーム・チョムスキー著 [illegible] ・世界の名著 [illegible] バクーニン クロポトキン
その他 [illegible] 本を買うことの出来ない人は [illegible] アナーキズム [illegible] 時代 [illegible] 本を [illegible] のこと。

夏休みに理論学宿予定

バクーニン『神と国家』
クロポトキン『青年に訴う』
レーニン『無政府主義が社会主義か』
レーニン『国家と革命』